

## 実物はどんなものか見てみよう！



### 軒丸瓦 (大会原遺跡)

奈良・平安時代の大型掘立柱建物の軒先を飾った丸瓦です。大会原遺跡は、相模国府（古代の役所）が置かれた場所なので、この瓦は国府に関連した建物に用いられたものと思われます。

蓮の花をモチーフとした文様で、U字状の花びらを6個配置し、その間をT字状の花びらで埋めています。中心部には蓮の実を表す4個の球、外周は16個の珠文で縁取っています。

瓦は、模様が彫られた木型に粘土を押し当てて作られますが、同じ木型で作られた瓦が、海老名市相模国分尼寺や茅ヶ崎市下寺尾廃寺からも出土しています。

## 実物はどんなものか見てみよう！



### 根付 (山下居留地遺跡)

幕末の横浜開港に際して山下町に置かれた外国人居留地の一角から出土しました。

根付とは印籠・巾着・煙草入れなどの堤物（さげもの）に付けた飾りで、着物の帯にくぐらせたりして堤物が落ちないようにしたものです。象牙や木などの材料で、人物・動植物・日常的道具などの形が作られました。江戸時代の中頃に流行したもので、男たちは武士も庶民もお気に入りの洒落た根付を身に着けて悦に入っていたと思われます。根付は来日した外国人の目にもとまり、明治時代以降は彼らも愛好するようになりました。